

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法
大石神影流剣術

貫汪館会報

第81号

発行 貫汪館
発行日 平成二十七年 一月 一日
発行人 森本邦生
広島県廿日市市宮内一四八〇

出雲大社奉納演武

平成26年10月19日(日)、昨年に続き、貫汪館主催の出雲大社奉納演武を執り行いました。今年の奉納演武では直心影流薙刀術の先生方をお招きし、盛大に行なうことができました。



奉納演武を終えて

今年も出雲大社の奉納演武に参加させていただきました。
新横浜から岡山へは新幹線で3時間、特急やくもに乗り換えて、また3時間ほどで出雲市駅に到着です。特急やくもに乗るのは初めてでしたが、通

路に段差があったりと、ちよつと思議な電車でした。車掌さんがアナウンスで、分水嶺を超えたとか宍道湖の話とかをしてくれるのが魅力的でした。

無事に駅前のホテルにチェックインして、夜は直心影流薙刀術の先生方をお招きしての懇親会です。薙刀一筋四十数年という先生方から、いろいろなお話をうかがうことができました。

さて、当日は夜もまだ明けやらぬうちに車で出雲大社に向かいます。外はまだ真つ暗でしたが、走る車の後方の地平線から次第に赤らんでいきました。6時前に出雲大社に到着すると、人がほとんどいないおやしろは、とても荘厳な感じがいたしました。

ほどなく皆も合流して昨年同様、八足門をくぐって正式参拝のあと今年も神楽殿での奉納演武となりました。

館長が居合五本を奉納したあと顧問や兄弟子、北大阪支部長と一緒に居合五本を奉納。続いて、直心影流薙刀術の先生方による御演武のあと、大石神影流剣術と澁川一流柔術の演武を奉納いたしました。昨年は初めてのことで右も左もわからず夢うつつのままに終わった感がありました。今年も2回目ですので、だいぶ余裕をもって行えたかと思えます。

直会はレストラン神楽で出雲そばを美味しくいただき、館長から昇段審査の証書を手渡されて解散となりました。

その後、館長にご案内いただいてさらに参拝と散策をいたしました。境内は昼ともなると参拝客でにぎわいます。夜明け前とはうってかわってなんだかまるで普通の観光地のようにです。でもそれも出雲大社には変わりなく、どちらも出雲大社なのでしょう。学校や職場は4月スタートで、武道の世界で

は1月スタートだったりします。でも私の中では、出雲大社の奉納演武が一つの大きな区切りのように感じられます。またあらたな周期のスタートです。

(文責 横浜支部長・内住 信之)



奉納演武を終えて

当日は、午前6時30分から正式参拝開始と言う事もあり、出雲大社へは6時ごろに到着致しました。駐車場には数台の車しかなく、出雲大社は静かで空気が張りつめたような感じが致しました。

演武は、無雙神傳英信流抜刀兵法から始まりました。森本館長の演武の後、顧問の岡田先生を先頭に、総勢6人での居合は迫力があり、その後は、大石神影流剣術・澁川一流柔術を演武しました。

今回は、いずれも大勢での演武でしたが、皆さんそれぞれが良く稽古をされていたと思えました。特に遠方より来られる各支部の方々は、お互いに稽古をすることが出来ませんが、息の合った演武をされておられました。

私は、無雙神傳英信流抜刀兵法・澁川一流柔術・大石神影流剣術を奉納させて頂きました。横浜支部長・名古屋西支部長との演武では「打太刀」・「受」をとらせて頂きました。お二人とは講習会等で数回しか形を合わせたことしかなく少し不安に感じておりましたが、いざ演武を行うとそのような不安もなく演武を行う事ができました。お二人には演武ではいろいろと助けていただき、ともに演武できたことに感謝の気持ちで一杯になりました。

今回の奉納演武会では、直心影流薙刀術の先生方をご招待し、御演武頂きました。いつも直心影流薙刀術の先生方の演武を拝見させて頂くと、美しい動きの見事さに感動させて頂きます。目付・残心などはもちろんですが、自分を中心とした相手との繋がり、周りの空間を自分のものとされているところなど、たくさんのお事を、学ばさせて頂きました。このたび学ばせて頂いたことを糧に今後の稽古に精進してまいります。有難うございました。

(文責 本部道場七尾道場長・片岡 潤二)



稽古会

大石神影流劔術と

無雙神傳英信流抜刀兵法の基礎

平成26年11月1日より3日間の日程で『大石神影流劔術と無雙神傳英信流抜刀兵法の基礎』の稽古会が開催されました。この稽古会では参加者を広く公募いたしました。本部道場、北大阪支部の会員の方をはじめ、森本館長平素のご尽力により遠くは海外のアメリカ、オーストラリアの2か国から、ご参加いただくことが実現いたしました。

稽古会では初めに大石神影流劔術の素振りから、動きを呼吸にのせて調和のとれた動きを体得する稽古から時間をとってじっくりと進められていきました。鼠蹊部の緩みと腹を中心とした刀の上げ下げを館長自ら細部にわたり丁寧に指導をいただきました。

大石神影流劔術の手の稽古に入ってからご指導されることは決して技巧的なものではなく、素振りの稽古同様に呼吸との調和に重点を置かれ進められていきます。

その後、稽古会の後半では無雙神傳英信流抜刀兵法の内容に入り座る事、歩くことの基本から丁寧に指導いただきました。素抜き稽古においても呼吸と調和のとれた動きを体得することを目的に進められました。

このたび参加された外国人の方々は初め、慣れない貫注館の動きに苦労され、ごこちない動きとなっておられました。稽古会が進むにつれて動きの本質を理解され格段にレベルアップされて

いることに非常に驚かされました。形に捕らわれず、言葉の壁をも越えて本質を理解されようという姿勢には、日本人でありながら理解の浅い稽古をしていたことに恥ずかしささえ感じさせられました。また、海を越え異国の地に学びに来られるという学ぶことへの探求心には敬服いたします。

(文責 本部道場・竹林哲也)



貫注館講習会

クンダリーニヨガと劔術のコラボ

平成26年11月8日(土)、廿日市スポーツセンター(サンチェリー)武道場で大石神影流劔術第七代大石馨御宗家を館長がお招きし『クンダリーニヨガと劔術のコラボ』と題し、講習会を開催していただきました。

大石馨御宗家はクンダリーニヨガのインストラクターであるほかにも多彩なご才能をお持ちの方で様々な場でご活躍されております。

当日は道場外からもたくさんの方に参加いただきました。



呼吸で一つに

「クンダリーニヨガと日本劔術のセミナー」に参加致しました。ヨガのインストラクターでもあられる大石神影流劔術第七代御宗家を廿日市にお招きしてのセミナーでした。4月の宗家継承式典でお会いした時に御宗家より、クンダリーニヨガについて少しお話を伺っておりましたが、百聞は一見に如かず、

とても興味深い体験でした。元々、貫注館での稽古を通して「すべては繋がっている」という思いを強く持つようになっておりましたが今回の体験により、その思いが一層深まりました。

呼吸と一緒に体を前後に動かしたり、回したり、音楽と一緒に自由に手を動かしたり、ダンスしたりと表に現れる「私たち」は武術とは異なりますが、呼吸が重要であること、自分と全てとが一つであると感じることなど求める本質はとてもよく似ていると感じました。クンダリーニヨガを御指導頂いた後、大石神影流劔術を稽古致しましたが自分と木刀、自分と相手、自分と世界の繋がりを強く感じられる状態になっていったのか、いつもよりも無理なく楽に動くことができました。

クンダリーニヨガは心の状態を高めるためにとっても効果的なものでした。また機会を得てレッスンを受けてみたいと思っています。

翌日の貫注館本部講習会にも引き続き参加致しました。大石神影流劔術の稽古では三學圓之太刀と小太刀の何本かの手数で横浜支部長と一緒に模範演武を行わせて頂きました。ある手数で館長より「見事です」とお言葉を頂いたのは大変誇らしい出来事でしたが、折角ヨガのレッスンで良い心身の状態を経験したのに、それを活かせていない部分も少なからずあり至らない部分を再認識した稽古でもありました。多くの、そして貴重な学びを得ることが出来た二日間でした。

大牟田より御足労頂き、素晴らしい御指導をしてくださった御宗家、この二日間の企画、準備にあたられた館長、本部の先輩方には感謝に堪えません。誠に有難うございました。

(文責 名古屋西支部長・林 大介)



貫汪館本部講習会

平成26年11月9日(日)、講習会二日目は大野体育館で行われました。大石神影流剣術、澁川一流柔術の半棒、無雙神傳英信流抜刀兵法の大小詰を学びました。

まずは大石神影流。三學圓之太刀から二刀、小太刀、長刀まで一気に行われました。二度程度の模範演武のあと、ペアになって稽古するので、それも各々二度程度。私はすでに教えていただいたので、どうにかついていけましたが、厳しい稽古です。

次に防具をつけての稽古です。私は二刀を執らせて頂きました。まず師匠に対します。槍そして木銃で相手をして下さいました。いずれも突きが早い。何とか小刀で師匠の得物をいなして間を詰め、大刀で面を狙いますが拍子を合わせる事が出来ません。試しに一刀でも対戦させていた頂きましたが、結果は同じです。幾度となく喉元を突かれました。入り身の難しさを改めて痛感いたしました。



兄弟子の皆さんは防具稽古そのものに慣れておられないので、私の二刀に対して戸惑いの方が多かったと思われまます。私はじわじわ間を詰めていく稽古をさせて頂きました。

昼食のあとは、澁川一流柔術の半棒を学びました。ここからはオーストラリアからの参加者でマイケルさんが相手です。これまでのように兄弟子にリードしてもらおうわけにもいかず、しかもどちらも初心に近い半棒です。そして彼には日本語の説明が分からない。どうなることやら。例によって二度程度の模範演武のあと、各々稽古に入ります。まずはゆっくりとした動作を英語で説明し、さあ稽古。驚きました。簡単に動きます。細かいところは改善の余地があるものの、無理無駄のない動きです。体も、そして何より心が柔らかいのでしょうか。とても素直に教えられたとおりに体を動かします。私が出来ない複雑な動きをする(ように私には思える)棒の扱いを涼しい顔をしてされた時にはすっかり脱帽いたしました。私が教わっていたのです。



大石神影流剣術の天狗抄は今回初めて学びました。対他流のための手数とすることで、非常にシンプルな技の数々。対他流ということは防具稽古をしたときに使えるようになるということでしょう。シンプルになるのは当たり前のように思います。この手数は防具稽古でも行うことが出来るはず。次回の防具稽古では試してみようとほくそ笑んだのは、きっと私一人ではないと思えます。



最後に無雙神傳英信流抜刀兵法の小詰。柔術のように相手を投げたり、組み敷いたりする形です。やっぱりマイケルが相手です。思わず体重を聞きました。145キロ…。でも、優しい彼は自分から転がってくれました。「業がかかっているかどうかが大事だから、自分から転がらなくていいよ」と言いました。業がなくていいよ。床に坐るのも大変なのに、私の試したいことに付き合ってくれました。本当に感謝です。

今回の稽古でも、さまざまなことを学びました。それは業だけではありません。貫汪館の稽古に日本語の通じない人たちが参加する。今後も増えていくことでしょう。貫汪館武術の動きは、力やスピードに頼ったものではありません。様々な人たちと武術を通して切磋琢磨し交流を深めていけるという可能性にワクワクします。

今回はレンタカーでの参加だったので、そのワクワクを肴に帰りの新幹線でビールを頂くことが出来なかったのが残念でした。

(文責 北大阪支部長・堂元 慎介)

三池地区剣道スポーツ少年団創立46周年記念第41回大石武楽先生追善少年親善剣道大会

平成26年11月23日(日)、福岡県大牟田市の大牟田市民体育館で『三池地区剣道スポーツ少年団創立46周年記念第41回大石武楽先生追善少年親善剣道大会』が開催されました。

この大会では例年、大石神影流剣術第六代大石英一御宗家と貫汪館森本邦生館長が大石神影流剣術の手法を披露

されております。

今年貫汪館より片岡潤一、竹林哲也の二名が先生方の名代として演武の機会を与えていただきました。

当日は天候に恵まれ、早朝から大会の準備が進められていました。開会式前に大牟田市民体育館に到着しました。体育館の中からは少年剣士たちの活気ある声が聞こえてきます。その中には『大石神影流剣術第七代宗家継承式』で演武を披露していた手鎌道場の子供たちの姿もありました。

会場へと入り、その広さに驚かされました。かつては、この市民体育館にあふれるくらいの子供たちが参加していたということでしたが、少子化や剣道人口の減少により今では少なくなりました。



定刻となり開会式が進行されてまいります。日本剣道形の先生方の御演武の後に大石神影流剣術の演武となります。会場の中央までが非常に遠く感じました。礼法を終え演武へと入ります。子供たちの真剣なまなざしを感じました。演武を終え、演武の内容に多くの反省点を残し、先生方の名代として派遣されたにも拘らず、その職責を全うできなかったことに、取り返しがつかない大きな責任を感じております。

大石神影流剣術の演武の後、開会式は終了となりました。

このたびは大会運営をお手伝いされているお母さま方には大変お世話になりました。私たちの様な未熟な者にも献身的にお世話頂き感謝しきれないほどです。

(文責 本部道場・竹林 哲也)



廿日市天満宮奉納演武

平成26年12月14日(日)、廿日市天満宮において貫汪館の稽古納めとなります奉納演武を執り行いました。当日は連日の寒波により寒さの厳しい中での演武となりました。



奉納演武を終えて

今回で、廿日市天満宮での奉納演武への参加は二度目になります。今年、秋に「初段」をいただきましたが、一年前は技の形ばかりを追っていましたので、今年は形に惑わされることなく心静かに演武を行うことを心がけました。実際に演武を行って感じたことは、緊張や寒さがあつて心静かに行うことができませんでした。昨年と比べて自分の動きを冷静に見つめることができ、少しづつではありますができるようになりました。それができてくるようになりなりました。

また、先生方の演武をゆつくりと拝見させていただき、いつもご指導いただいている「流れるような自然な動き」に注目し、自分の動きを思い返してみると、自分中心の身勝手な動きを再認識することができました。最後に、今年も大変お世話になりました。来年も何卒よろしくお願い致します。

(文責 本部道場・若狭 優貴)



日本武道学会中四国支部会

平成26年12月20日(土)、香川県仲多度郡の少林寺拳法本部で行われた第六回日本武道学会中四国支部会に初めて参加させて頂きました。

学会のはじめに、中四国支部長の杉山允宏先生から、「中学校で武道が必修授業になりました。武道を教える目的をしっかりと持ち、短時間に適切に、教えないよう安全面に気をつけて教えていかなければなりません。」と

御挨拶がありました。また、杉山家の家訓として「作らず、濁らず(自分を偽らず、正々堂々と貫いていくと)」をご紹介いただきました。

続いて、福山市立大学宮本賢作先生から、9月に行われた日本武道学会第47回大会のご報告があり、あわせて時公開演武をさせて頂いた澁川一流柔術が好評であったとご紹介いただき、とても嬉しく感じました。

今回の中四国支部会における個人研究発表は7演題あり、森本館長は「土佐藩片岡健吉の稽古記録について、安政5年の『文武修行日記』を中心に、」の発表をされました。館長の御研究は資料を非常に緻密に調査しておられ、発表資料もわかりやすく、また、発表時間の10分間でわかりやすくまとめてお話されました。昔から「文武両道」と言われますが、武道だけ稽古しては視野が狭くなるため、私たちも研究をはじめなければならぬことを痛感しました。

今回武道学会で公演を拝聴でき、ほんとうに勉強になりました。今回学んだことを今後の稽古に生かしたいと思っております。

(文責 竹本道場・竹本 治恵)



平成26年12月昇級者

平成26年12月6日(土)に行われた昇級審査での昇級合格者です。

澁川一流柔術7級 高田 琉市

